

Kショッピングセンター (A)

5

Kショッピング・センター(以下K-S Cと略す)は昭和47年6月M県K町で開店された。K町は東西を高さ100~200mの丘陵に囲まれ、中央の平坦部を南北に通ずる幹線道路に沿って散在する20ほどの集落で構成される人口約2万(昭和45年現在)の町であった。南は人口約8万のG市に、また北は人口約21万のO市に隣接していたためもあって、K町の商業はM県の同規模の町と比較して可成り活動が不振であった(表1参照)。そしてK-S Cの開店は当時この様なK町における沈滞した商業活動に有効な刺激を与えるものと考えられていた。

10

K-S C設立の経過

K-S Cは隣接するN市に本拠を置く地域衣料スーパーY店を核店舗として他に小売業者10店を含む協同組合方式で設立された。設立当時の事情をK-S Cの理事長である山田準一氏は次の様に語っている。

15

「私の家はK町で古くから料亭を営んで来ましたが、私の代になって惣菜店と映画館とを営む様になりました。御承知の様に映画産業が斜陽化するに伴って、私の所有の映画館を改造して市場形態の商業施設とし、それを数軒の小売業者に賃貸したわけです。昭和46年になって賃貸料のトラブルから店子だった小売業者が一度に出てしまい、その建物の北側約100mのところ公庫の資金を導入して「Kストア」と云う市場を開店したのです。建物の処置に困った私は当時地域スーパーのY店がK町に出店の意思があり、適当な場所を探していることを聞いて、隣接する土地の所有者であった境氏と同道してY店の社長である川本氏に面会して出店を要請したのです」。

20

2人の土地提供者の申し出を受けY店は当時全国スーパーの相づく出店の影響もあって、従来からの持論である「地域に密着したスーパー」の特色を生かした店舗展開を開始したところであり、すでに4店の出店計画を完了していた。K町への出店経過について川本氏は次の様に述べている。

25

「私共が協同組合のお世話をすることになったのは当時M県の診断課の課長であるS氏が中小企業経営の計数管理面での近代化に大変熱心でして、その強力な指導に基くものです。当時私共はいくつかの出店の経験から、協同組合方式をとる場合に生ずる個々の組合員の複雑な利害関係の調整に全く困惑していたのです。したがって若し組合方式をとるのであれば、その際には各組合員の経営状態をすべて公開すると云う条件が整っていないと考える必要はないと考えていたわけです。そこでこのことを組合員の条件として提案したのです。この見返りとしては勿論私の会社で使用している独自の経営システムのノウハウを全て提供することとなりました。これは当時計数管理あるいは小売業経営の近代

30

このケースは、教育に使用するためにビジネス・スクールが作成したものであり、経営の適切、不適切を例示するものではない。
(昭和54年6月)

35